

H29海外臨床実習

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	N. K	香港中文大学	香港(中国)	H30/2/5-H30/3/2

## 平成 29 年度岸本国際奨学金による海外活動実施報告書

渡航先：香港中文大学（協定校）

医学部医学科 5 年

N. K

### ●日程

	月	火	水	木	金
<b>第 1 週</b> (2/5～2/9) <b>Hepato-biliary                      and                      pancreatic surgery</b>	9:30infection course 13:00 外来見学	8:00 ward round 9:00 授業 13:00 肝腫瘍ラジオ 焼灼術見学 17:00 プレゼン準備	8:00 ward round 9:00bedside lecture 13:00 臍頭十二指腸 胆のう切除術見学	8:00 ward round 9:00 患者回診 13:00 ERCP 16:00 プレゼン準備	8:00 ward round 9:00 授業・プレゼン 13:00 外来見学
<b>第 2 週</b> (2/12～2/16) <b>Upper                      Gastrointestinal                      and Metabolic                      Surgery</b>	8:00 ward round 9:00 患者回診 13:00 外来見学	8:00 ward round 9:00 授業 13:00 授業	8:00 ward round 9:00 患者回診 13:00 bedside lecture	8:00 ward round 9:00 授業	Chinese New Year の ため、休み
<b>第 3 週</b> (2/19～2/23) <b>neurosurgery</b>	Chinese New Year の ため、休み	8:00 ward round 9:00 外来見学 17:00team meeting 18:00 減圧開頭術見 学	8:00 ward round 9:00 外来見学 13:00 脊髄腫瘍疑い への生検見学	8:00 ward round 9:00 脳腫瘍摘出術 見学	8:00 ward round 9:00 ペースメーカー の交換手術見学 12:00lunch meeting 15:00 外来見学
<b>第 4 週</b> (2/26～3/2) <b>neurosurgery</b>	8:00 ward 9:00 脊髄腫瘍摘出見 学	8:00 ward round 9:00 bedside lecture 17:00 team meeting	8:00 ward round 9:00 脳腫瘍摘出術見 学	8:00 ward round 13:00 脳血管造影見 学	8:00 ward round 9:00 外来見学 12:00 lunch meeting

### ●活動の目的

香港の外科はどのようなものであるか知ること、香港と日本で医療レベルに違いがあるのか知ること、香港の医学生と日本の医学生の間にどのような違いがあるのか知ること、香港の医師の働き方について知ること、英語で医学を勉強することの重要性を確認すること。

### ●活動の内容

香港中文大学の関連病院である Prince of Wales Hospital にて4週間実習させていただいた。実習期間中の日程は上記の通りである。第一週、第二週は、同じ科で実習を行っていた香港中文大学の医学生（第6学年）と行動を共にさせていただいた。具体的には授業をうける、プレゼンやディスカッションをする、患者さんの身体所見をとるなどであった。第3週、第4週は、医学生らは医師国家試験の勉強のため実習がなかったため、脳神経外科の先生方についてまわり実習させていただいた。多忙にもかかわらず非常に親切に対応していただき多くを学ぶことができた。

### ●活動の成果

本実習において学んだことが大きく分けて三つある。一つ目は、香港の医学生の優秀さである。香港で医学部へ入学できる学生は非常に少なく、医学生らは日本の医学部受験よりも激しい競争を勝ち抜いたうえで医学部に入学しているエリートたちである。中学から学校の授業はすべて英語で行われていて、医学部に入学してからも英語と広東語両方で医学を勉強している。大学で行われている授業では、1グループ生徒6人に担当医師が一人つき、担当患者さんの病態や治療方針について先生と議論し知識を深めていた。実際の患者さんを題材にして生徒一人一人が症状や治療方針を考えプレゼンしており、日本よりも自分から発信しそれに対する評価をもらう機会が多いように感じた。自分もグループ学習に参加させていただき非常に勉強になった。学生の勉強への意欲も高く、平日は一日中病院に残り患者さんの身体所見をとり上級医へ報告したり、最新の論文を読んで自分の志望科に関する知識を深めたりと、よりよい医師になろうと努力している人たちが大半であった。香港の医師国家試験は過去問を勉強しただけでは太刀打ちできないほど細かい知識を要求されていたり、数分で患者さんの身体所見をとる実技試験があったりと日本よりも求められているレベルがかなり高く、医学生らは一日の大半を勉強にあてており、日本のように部活動やアルバイトをやっている学生はごく少数であった。自分を含め日本の医学生はもっと勉学に励むべきであるし、そうでないと日本が衰退していくように感じた。

二つ目は、英語を勉強することの大切さである。香港では医師と患者さんとは広東語で会話し、医師医学生同士では英語と広東語の二言語で会話している。カンファレンスやカルテはすべて英語を共通言語としており、彼らにとって二言語で医学を勉強することはごく当たり前のことであった。今まで日本の病院で実習してきた中で、英語でカンファレンスやカルテを書いている病院はごく少数であったため、同じアジアにある国でも日本と香港でこれほど違うの

かと驚いた。英語が共通言語のため、香港の病院へ世界中から医学生や医師が留学にやってくるし、香港の医師は世界中へ留学していると聞いた。英語を共通言語としているおかげで、香港の医療はどんどん発展していくように感じた。日本の病院には海外の患者さんや外国人医師が少ないため、英語が話せなくても問題なく働くことができるし、幸せなことに医学を母国語で勉強でき効率的に知識を吸収できる。しかし、世界の最先端の医学を学び、自分が発見・体得した知識・技術を世界の先生方へ発信して、自分の専門領域の知識・技術を深めていくためには英語は必須であると感じた。

三つ目は日本と香港の医療レベルである。今回肝胆膵、上部消化管、脳神経外科部門において勉強させていただいたが、治療方針や手術の前準備、手順、術後管理などの医療の質は日本と香港はほとんど同じであるように感じた。香港の医師によると、手術の技術は日本の方が優れており、日本人医師は器用で正確な手術を行っており勉強になる点が多いとのことだった。香港と日本で違うと感じた点は、肝硬変や脳腫瘍などの慢性疾患を放置し重体となっている患者さんが多い点である。腹部膨隆が明らかになるまで大きくなった肝がんや頸椎5つにまたがる大きな脊髄腫瘍など、病棟には重体患者が非常に多かった。検診を受けに来るような人が少なく、我慢できなくなるまで病気を放置しておく人が多いためであるとのことであった。病気を早期発見し未然に防ぐことの大切さを感じた。

#### ●今後の抱負

今回の実習で医学を違う国で勉強することで、今までと違う視点から医学をみるいい機会となった。外国で医療従事することのメリット・デメリットを踏まえて、今後のキャリアで外国で医療従事することも視野にいれようと感じた。香港の脳神経外科の先生に親切にいただき医療への熱い思いを聞かせていただいた。先生方への感謝と尊敬を忘れず今まで以上に勉学へ励もうと思った。同じアジア圏の香港で、年の近い医学生と一緒に勉強・実習することで、自分の医学知識の浅さや英語の話せなさ、意識の違いを痛感し、ふがいなく悔しい思いの連続であった。今後この劣等感を忘れることなく、今まで医学・英語に対して真摯に取り組んでいこうと思った。

#### ●謝辞

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただけたのは、岸本忠三先生、岸本国際交流奨学基金関係者の方々、医学科教育センターの和佐勝史先生、河盛段先生、香港中文大学のDr. Danny、Dr. Jason をはじめ、多くの方々のおかげであり、深く感謝致します。